

第1章 計画の基本的事項

1 計画策定の背景と基本的な考え方

【平成初期】昭和時代の公害行政から「環境行政」への転換

平成5(1993)エコポリス板橋環境都市宣言
平成7(1995)エコポリスセンター開設

【平成10年代～】区民・事業者・区の協働による幅広い取組の展開

平成11(1999)「板橋区環境基本計画」策定
平成21(2009)「板橋区環境基本計画(第二次)」策定
平成28(2016)「板橋区環境基本計画2025」策定

【令和】未来志向の持続可能なまちづくりへ

令和4(2022)「ゼロカーボンいたばし2050」表明
〃 SDGs未来都市に選定
令和6(2024) プラスチック資源回収開始

＜策定の基本的な考え方＞

- ・ 次期基本計画との整合を図り策定
- ・ SDGs未来都市の実現
- ・ 中長期的な施策＋短期のアクションプランを備えた総合的な計画

2 計画の位置づけ

「板橋区基本構想」、「板橋区基本計画」で示された施策を環境面から具体化する計画

3 計画期間

令和8(2026)年度から令和17(2035)年度まで(概ね10年間)

第2章 環境の現状と課題

1 国内外の動向

① 持続可能な開発目標(SDGs)

経済・社会・環境の3つの側面のバランスがとれた社会をめざす取組の広がり



② 第六次環境基本計画

- 将来にわたって「ウェルビーイング／高い生活の質」をもたらす「新たな成長」の実現
- 環境収容力を守り環境の質を上げることによって、経済社会が成長・発展できる「循環共生型社会」の実現

③ 脱炭素・気候変動対策

2050年までのカーボンニュートラルの実現

④ 循環型社会

循環経済(サーキュラーエコノミー)への移行

⑤ 生物多様性

- 2050年ビジョン「自然と共生する社会」
- 2030年 ネイチャーポジティブ(自然再興)の実現

2 板橋区のこれまでの取組（前計画の振り返り）

前計画の評価(令和6年度末)

① 全体の総括

○ 脱炭素分野

区内の温室効果ガス排出量は、基準年(平成26年度)比で、43.8 万t-CO2減少。排出量の削減目標の達成に向けて、引き続き取組を進め成果を高めていく。

○ 資源循環分野

区民一人当たりの一日のごみ排出量は、基準年比で110g減少し、計画期間の終期を前に目標を達成。

○ 自然環境・生活環境分野

区内の大気や水(河川等)の状況は、ほぼ環境基準を満たしている。植生被覆率に代わる「緑被率」の実績値においては、公有地の樹木の剪定、民有地の樹木と農地の減少により低下してきている。

※植生被覆率と緑被率の特徴＝植生被覆地は作物(植物体)のない農地は植生被覆地として抽出されない。緑被率は作物のない農地や、植生被覆地として抽出されにくい植生を緑被地としている。

○ 環境教育分野

普及・啓発事業や指導者育成事業を実施し、主体的に行動する人づくりに取り組んできた。コロナ禍を経て、区民等の事業への参加を広げていく。

②各基本目標の総括

基本目標1 脱炭素社会の実現

- 区内の温室効果ガスの排出量は減少。目標達成に向け一層の削減を進めていく。

基本目標4 快適で健康に暮らせる生活環境の実現

- 環境性能に優れた自動車の普及を背景に大気環境、自動車騒音の改善が図られている。

基本目標2 循環型社会の実現

- 区民一人当たりの一日のごみ排出量は、目標を達成。引き続きごみ減量等を推進。

基本目標5 「環境力」の高い人材の育成

- 環境教育プログラムは、実施校の増加により定着が図られている。コロナ禍を経て環境学習の活動を活発化していく。

基本目標3 自然環境と生物多様性の保全

- 植生被覆率に代わる「緑被率」の実績値においては、公有地の樹木の剪定、民有地の樹木と農地の減少により低下してきている。

基本目標6 パートナーシップが支えるまちの実現

- 活動が展開されている登録団体の減少や構成員の高齢化が進行。団体や大学等との連携を深めていく。

指標名	基準年値 平成 26 年度	めざす 方向性	実績値 令和 6 年度	目標値 令和 7 年度	進捗率	評価
基本目標 1：脱炭素社会の実現						
区内エネルギー消費量 ^{※1} (熱量換算)	—	—	19,997 TJ ^{※4}	—	—	—
区内温室効果ガス排出量	231.8 万 t-CO ₂ ^{※2}	〇	188.0 万 t-CO ₂ ^{※4}	162.3 万 t-CO ₂ ^{※3}	63.0%	漸進
基本目標 2：循環型社会の実現						
区民一人当たりの一日のごみ排出量	689 g ^{※5}	〇	579 g	598 g ^{※6}	100% 以上	達成
リサイクル率	21.5 % ^{※5}	〇	25.0%	28.0 % ^{※4}	53.8%	漸進
基本目標 3：自然環境と生物多様性の保全						
区全体の植生被覆率 ^{※7}	18.3 %	〇	18.57 %	21 %	10.0%	漸進
公園率	5.9 %	〇	5.9 %	6.1 %	0%	停滞
石神井川における生物化学的 酸素要求量 (BOD75%値)	0.7 mg/L	〇	0.9 mg/L	1.0 mg/L 以下	66.7%	達成
白子川における生物化学的 酸素要求量 (BOD75%値)	3.8 mg/L	〇	2.2 mg/L	2.0 mg/L 以下	88.9%	順調
基本目標 4：快適で健康に暮らせる生活環境の実現						
微小粒子状物質(PM2.5)の 基準値日レベル以上の日数	25 日	〇	0 日	23 日	100% 以上	達成
騒音に係る環境基準の達成率	79 %	〇	88.0 %	85 %	100% 以上	達成
基本目標 5：「環境力」の高い人材の育成						
人材育成に関わる環境講座参加者数	199 人	〇	224 人	400 人	12.4%	漸進
外部人材を活用した環境学習 実施校(園)の割合	76.1 %	〇	64.2 %	100 %	0%未満	停滞
環境教育プログラム利用校 (園)の割合	74.4 %	〇	83.5 %	100 %	35.5%	漸進
エコ生活(アクション9)の実 施状況	75.0 %	〇	82.0 %	100 %	28.0%	漸進
基本目標 6：パートナーシップが支えるまちの実現						
全区民参加型環境保全キャン ペーン参加者数	25,674 人	〇	17,823 人 ^{※8}	31,500 人	—	—
エコポリスセンター事業への ボランティア等参加者数	990 人	〇	963 人	1,300 人	0%未満	停滞
環境登録団体数	27 団体	〇	22 団体	37 団体	0%未満	停滞
環境学習講師派遣人数	363 人	〇	379 人	500 人	11.7%	漸進

※植生被覆率＝植生指数が一定以上を示している植生(緑)に覆われている箇所。本値は自動抽出による値であり、目視によるノイズ除去を施していない結果であるため、後工程で明らかになる緑被調査の結果は植生被覆調査の結果と大きく異なる可能性がある。

3 区民・事業者の意識

(1) 区民・事業者・児童生徒アンケート



	区民	事業者
環境問題への関心	地球温暖化・気候変動に最も高い関心	省エネルギーを最重要視
区が今後重点的に取り組むべきこと	<u><共通>気候変動対策（緩和・適応）を重視</u> 豪雨の頻発等に対応した水害対策、気候変動に対応した熱中症対策	
区民が今後重点的に取り組むべきこと	<u><共通>ごみの削減と資源の有効利用を重視</u> ごみの削減、資源の有効利用	
	児童・生徒	
環境問題への関心	自然や生きものの保全、地球温暖化に高い関心	
学びたい環境問題	「地球温暖化」が突出	

<各調査の概要>

【区民アンケート】	対象:2,000人	回答数:504人	回答率:25.2%
【事業者アンケート】	対象:500社	回答数:127社	回答率:25.4%
【児童・生徒アンケート】	対象:区立小学校5年生	回答数:2,332人	回答率:58.8%
	区立中学校8年生	1,806人	58.8%

(3) 関係団体ヒアリング



区民への発信	・区役所のリーダーシップの発揮が必要 ・活動主体が能動的に動く働きかけが必要
環境学習・環境教育	・体験・探究につながる学習機会が必要 ・学校と環境セクションの連携、大学による支援 ・地域活動の拠点(地域センターなど)の積極的な活用
協創・推進体制	・区役所内部の横連携の強化 ・様々な主体が集まり、問題意識の共有、意見交換ができる、 ゆるやかな関係構築の場づくり(環境カフェ等) ・事業者、研究機関等への実証フィールドの提供 →協働、実践の促進

(2) ワークショップ



① 区民ワークショップ

開催日:令和6年9月14日(土)・28日(土)・10月5日(土)
場所:区役所大会議室 参加者数:延べ45名

板橋の環境の変化	・緑、自然が減っている ・環境への関心、意識は高まっている
板橋の環境の未来	・災害に強く、安心・安全なまち ・多様な人々、自然との共生の暮らし
未来を実現するために「できること」	・環境を守る・つくる+育てる ・様々な主体をつなぐ ・子どもたちの体験を広げる

② 子どもワークショップ

開催日:令和6年8月4日(日)・6日(火)・22日(木)
場 所:板橋区立エコポリスセンター 参加者数:延べ68名

今の板橋区の環境	いいところ : 自然や公園があるところ よくないところ: ポイ捨てが多い		
こうなったらいいな と思う板橋区の未来 の環境	地球温暖化がない	ポイ捨てがなくきれい	自然がいっぱい
	日陰があって涼しい	みんなが過ごしやすい 月や星が見える	たくさんの 生きものがいる

(4) 各調査結果から集約したキーワード



脱炭素	○ 地球温暖化 ○ 未来	気候変動適応	○ 気候変動 ○ 安心・安全
資源循環	○ ごみの削減 ○ 資源循環(有効利用)	生活環境	○ きれいな街(美化) ○ 快適な生活
自然環境	○ 緑・自然 ○ 共生	学びと協創	○ 連携・協創 ○ つながり(世代) ○ 活動・体験

4 課題

計画全体に関わる課題

○ ビジョンの明確化

～国の第六次環境基本計画(ウェルビーイング)との整合性～

分野ごとの課題

脱炭素

- ・温室効果ガス排出抑制の取組推進
- ・区民・事業者への支援の充実

気候変動適応

- ・環境部門と健康部門(熱中症対策)、防災部門(水害対策)の連携
- ・区民、事業者への理解醸成

資源循環

- ・区民、事業者への継続的な周知
- ・意識を高め、行動変容に繋げる啓発

生活環境

- ・事業者への公害関係法令の普及・啓発
- ・区民へのわかりやすい情報提供

自然環境

- ・自然環境を保全していく風土醸成
- ・「知る(学ぶ)・体験する・活動する」機会の提供

学びと協創

- ・環境教育・環境学習に触れる機会の拡充
- ・DXの活用によるコンテンツの充実
- ・関係主体間のネットワークの拡大

○ 分野の連携

～円滑な分野相互連携～

○ KGI(重要目標達成指標)とKPI(重要業績評価指標)

第3章 将来像と6つの基本目標

1 将来像 みどりははぐくむ、循環・共生・協創のまち ～GO GREEN いたばし～

※GO GREENとは、環境にやさしい行動をとることを意味する。

2 基本目標



基本目標1

ゼロカーボン がつなが 幸せを実感できる環境のまち

脱炭素

脱炭素や気候変動適応、資源循環、自然環境、生活環境、環境教育など、分野横断的に環境に配慮し、幸せを実感することができるまちづくり(環境まちづくり)をめざします。



基本目標2

気候変動に備え 地球に適応 するまち

気候変動適応

気候変動の原因となる温室効果ガスの排出を抑制するとともに、気候変動に対応していくため、熱中症対策・水害対策に取り組み、安心して暮らせるまちをめざします。



基本目標3

資源を大切にする 循環 のまち

資源循環

ごみとなるものをできる限り減らし、リユースできるものは資源として循環させる暮らし、事業活動を促進し、環境と経済のバランスに配慮した循環のまちをめざします。



基本目標4

きれいな空気・水・クリーンな住環境を感じる 安心・健康 のまち

生活環境

大気・水環境等に関する基準の遵守やまちの美化等の取組を促進し、安心して健康なまちをめざします。



基本目標5

自然の恵みと共生し ネイチャーポジティブ を実現するまち

自然環境

動植物等の生物と、それを支えるみどりが調和する生物多様性への理解と体験を深め、保全と活用の取組を活性化し、ネイチャーポジティブを実現するまちをめざします。



基本目標6

学びと協創

学び、育て、主体的に行動する 環境人づくり

人々の活動が地球環境に与える影響について「学び」、持続可能な社会の形成に向けて、行動できる人材を「育て」ます。
また、それぞれの主体が連携・協働し、主体的に「行動する」人づくりをめざします。



区民・事業者・区等が一体となった計画の推進

第4章 施策

(1) ゼロカーボン がつなぐ
幸せを実感できる環境のまち

- ① ゼロカーボンを通じた持続可能なまちづくり
 - ア ゼロカーボンの視点でのまちづくり
 - ☞ まちづくりにおける環境に配慮した整備（エネルギー・建築物・みどり等）
 - ☞ ライフサイクルカーボンに基づく温室効果ガスの削減
 - イ ウェルビーイングを実現する施策展開
 - ☞ 木質化や断熱化の取組推進
 - ウ ウォーカブルなまちづくり・グリーンモビリティ
- ② 区民・事業者の環境行動（省エネルギー等）の推進
 - ア 区民の環境活動のステップアップ
 - ☞ アクションポイント事業リニューアル
 - イ 企業の環境活動の支援強化
 - ☞ 板橋エコアクションリニューアル
- ③ スマートシティとの連携



(4) きれいな空気・水・クリーンな住環境を感じる **安心・健康** のまち

- ① 良好な生活環境の確保
 - 公害法令に基づく対策（土壌汚染及びアスベスト等）、騒音・振動対策、河川の水質及び湧水等の保全
- ② まちの美化の推進
 - 地域と連携した美化活動（板橋クリーン作戦等）、喫煙マナーの促進



不動の滝

(2) 気候変動に備え
地球に適応 するまち

- ① ライフスタイルの推進（熱中症対策）
 - クーリングシェルター（熱中症一時休憩所）設置
 - ウォーターサーバー設置、熱中症予防の普及啓発
- ② 安心・安全なまちづくり（風水害対策）
 - ア 風水害リスクへの備え
 - 板橋区洪水ハザードマップ、いたばし防災＋アプリ等。
 - イ 雨水浸透・雨水利用の推進
 - 建築物の雨水浸透施設の設置、雨水貯留タンク設置推進



(5) 自然の恵みと共生し
ネイチャーポジティブ を実現するまち

- ① みどりや水環境の保全・活用
 - ア 自然の保全と活用
 - 河川等、緑化推進、公園、樹林地等
 - イ 生態系の保全
 - 生物の生息・生育調査、ビオトープの保全
- ② 生物多様性の理解浸透とその恵みの持続的利用
 - ア 生物多様性の普及・啓発（学習）
 - 生物生態園、エコポリスセンター、熱帯環境植物館、リサイクルプラザ
 - イ 自然に親しみ育む場づくり・機会づくり
 - <緑を楽しむライフスタイル>
 - グリーンフェスタ、緑のガイドツアーなど
 - <親しめる水辺づくり>
 - かわまちづくりなど



石神井川



荒川生物生態園

(3) 資源を大切に**循環** のまち

- ① 区民生活における3Rの推進
 - ごみ減量促進、資源化推進、フードドライブ、食品ロス
- ② ごみの発生抑制・資源循環の推進
 - ア 情報発信 板橋かたつむり運動、リサイクルプラザ
 - イ 地域との協働 リサイクル推進員、環境行動委員会等

一般廃棄物処理基本計画とリンク

(6) 学び、育て、主体的に行動する
環境人づくり

- ① 機会づくり（情報・場）の促進
 - ア 環境コンテンツ
 - 地域の資源を活かしたコンテンツ作り、デジタルコンテンツやデジタル技術の活用（DX）
 - イ 環境教育と人材育成
 - 地域のフィールドを活用した学びや体験の場・機会づくり、環境教育プログラムの推進
 - ウ エコポリスセンター機能向上
 - 絵本のまちと連携した親子が環境にふれあう居場所、子どもたちが環境を学べる学びの場、環境コンテンツの発信
- ② 協働の取組促進
 - 区民、環境団体、企業、大学との連携地域連携プロジェクト



デジタルコンテンツのイメージ



環境教育プログラム



絵本を活用した環境プログラム

第5章
推進体制
及び進行管理

推進体制

- 板橋区資源環境審議会、庁内組織（エコポリス板橋推進本部）を中心とした進行管理
- 板橋区環境教育推進協議会、エコポリス板橋環境行動会議と連携した計画の推進

進行管理

- P D C Aサイクルによる進行管理の継続
 - ・ 指標を用いた中長期の成果の評価と、短期の活動状況の点検
 - ・ 「板橋区環境白書」による点検と、評価結果の公表